

科目コード	科目名	単位数
0901	教育原論	2単位
0904	教育の思想	2単位

※同一内容で科目名称が入学学年によって異なる科目（iii ページ参照）

教材コード 000199

教材名 教育原論／教育の思想

著者名等 関川 悦雄・北野 秋男

■教材の概要

「教育とは何か」、「教育とはどうあるべきか」という教育の営みを根本的に再検討し、教育の本質的な理論や問題に迫る。現代の教育思想の中心的な理念や理論を構築した、12名の代表的な思想家を紹介しながら、現代にも通底する教育の基本的な考え方、もしくは新たな解決策を提示した優れた教育思想について論述している。

■学習計画のポイント

- ① 近代以降の教育思想の特色が人間の自律的な主体形成論であったことを理解する。
- ② 12名の教育思想家の中心的な理念や理論を理解する。
- ③ 12名の教育思想家が、それ以前の古い教育的な考え方の何を変革しようとしたかを理解する。
- ④ 現代の教育問題を具体的に提起し、教育思想的に考えてみる。

■学習上の留意点

現代の教育問題を考えながら、12名の教育思想家が述べている理念や理論を検討してみる。教育思想のルーツにせまることができる。各章の最後に掲載されている参考文献から入手可能なものを探し、必ず一読してみる。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0903	現代教職論	2単位

教材コード 000418

教材名 『改訂新版 教職入門―教師への道―』

(学習指導書別冊)

著者名等 吉田 辰雄・大森 正

■教材の概要

本書は1998年の教育職員免許法改正により新設された「教職の意義等に関する科目」（本学では「現代教職論」）のテキストとして編集されている。この科目（授業）には、教師としての資質や必要とされる能力について考え、教職とはどのような仕事であるのかを理解し、また法制上の身分や責任を理解することで教師としての意識を強めることも期待されている。将来の職業として教師を選択する上で、自らにその資質があるのかを問いかけることも目指された授業である。

■学習計画のポイント

ページ17～112

- ① 最近の子ども（生徒）の生活や学校での様子、様々な教育問題について近年のデータがあげられているので、そこから子どもたちの実態についてイメージしてほしい。
- ② 教師の仕事として「学習指導」と「生徒指導」という大きな二つの枠組みがあることを理解してほしい。また近年に強く求められることとなった「キャリア教育」や、教師と生徒の活動の場である「学級」という単位について学び、その意義や難しさ（ゆえの重要さ）について考えてほしい。
- ③ 教師に何が求められてきたのか、そして今、何が求められているのかを理解するために、教員養成の歴史について学ぶ。以上、教師とは何か、何をすべきかということを学ぶ内容となっている。

ページ113～185

- ① 教員養成のしくみや、採用という制度、また現職教員の資質向上の機会としての研修について、その変遷や改革の動向を学ぶことで、運用の実態や意義について理解できるようにする。
- ② 法制上の教員の地位と身分、待遇や勤務条件などについて学ぶ。
- ③ 教師として働く（活動する）場である「学校」について、そのしくみや管理、運営のありかたについて理解することが必要である。以上、法制上のしくみや変遷について学ぶ内容となっている。

■学習上の留意点

いじめ、不登校、生徒指導、学習指導要領、教育の歴史…。これらは他の教職科目でもとりあげられている問題（テーマ）である。この教科（現代教職論）は、「教師としてどのような意識や行動が必要なのか」を考え、資質や能力を修得することが学習目標としてあげられている。そのためにこれらの問題（テーマ）を「教材」として学ぶのだということを意識してほしい。つねに「教師とは何をすべきなのか」という視点をもってほしい。

■参考文献

本章の各章ごとに提示されている「参考文献」を参照されたい。

科目コード	科目名	単位数
0905	教育の歴史	2単位

教材コード 000419

教材名 教育の歴史

著者名等 小野 雅章・羽田 積男・関川 悦雄・永塚 史孝

■教材の概要

この教材は、前編に日本の教育の歴史を、後編に西洋の教育史を収めている。教育の歴史は、教育学の中核的な位置を占める学問分野であり、教育職員免許法においても重要な学習分野になっている。

日本の教育は、奈良時代から江戸末期まで中国の影響下にあったといっていよい。しかし、幕末明治維新期には、中国の伝統のなかでは日本は生き延びることができないとの認識がひろがった。それはなぜなのであろうか。

かくて、明治維新时期や第二次世界大戦後の日本の教育の再構築には、ヨーロッパとアメリカの影響が大きい。日本の現在の教育の淵源は、遠く古代のギリシャにまで遡ることができるかも知れない。そうした縦にも横にもひろがる教育の歴史を概観したものである。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 102

〈日本教育史〉

幕末から明治維新期の西洋に影響を受けた教育の構築を、教材によって詳細に学習すること。また、教育勅語の登場はなぜだったのか。天皇の教育に関する勅語は日本の教育をどのように規定したのであろうか、考えてみよう。

戦後日本の教育の再建も、アメリカの大きな影響下でおこなわれた。それは単に戦勝国の教育を模倣して受け入れたのかどのような経緯によってそのようなことになったのか。現在の学校を想起しながら考えてみよう。

ページ 103 ～ 230

〈西洋教育〉

現在の教育の比較的に近い源は、18世紀啓蒙時代の西洋の教育にありそうであるが、それは何故か。また、19世紀の公教育は、どのような経緯で先進諸国のなかに根付いていったのか。こどもを中心に教育を考えるとという思想は、現在でもいきているのか。これまた現実の教育、実際の学校を想起しながら考えてみよう。

■学習上の留意点

現在の教育の問題の淵源は、教育の歴史をどれほど辿ればたどり着くのか考えながら学習しよう。教育の歴史は、単にものごとを暗記し、年号を覚えればよいというものではない。自らの教育学のひろい教養となるように、あるいは教職教養の基礎となるように学習しよう。

■参考文献

教材の最後に掲げてあるので、参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
0906	発達と学習	2単位

教材コード 000420

教材名 『教職をめざす人のための教育心理学』

著者名等 藤田 主一・楠本 恭久 編著

■教材の概要

本科目の教材は教職課程における勉学を念頭に執筆されたものである。タイトルには「教育心理学」とあるが、その内容は現教職科目である「発達と学習」に則しており、教員にとって必要とされる発達と学習に関する基礎知識が記されている。

■学習計画のポイント

ページ 23 ～ 62

2章～4章には発達に関する問題が記されている。特に2章は続く3,4章を体系的に理解するために欠かせない知見や理論があげられているので、その内容を全般的にしっかりと習得してほしい。教職科目であることを考えた場合、3章（乳幼児の発達）においてとりわけ重要な節が2節の認知機能の発達である。4章では青年期において抱える諸問題について、主に自我の発達という観点からとらえてほしい。

ページ 63 ～ 159

5章～11章は学習に関する問題が記されている。他の教職科目における内容との重複を考えた場合、本科目において特に重要な章は5,6,8,11章である。5章では古典的条件づけ, 道具的条件づけ, 試行錯誤説, また洞察説といった基本的な学習理論に関する知識を得てほしい。6章では学習の成果に大きな影響を及ぼす動機づけについて理解するとともに、具体的な指導法に関する知識を得ることも重要である。8章では3節, 4節を中心に学力と知能の関係を学んでほしい。11章で取り上げられる教育評価は近年議論されることが多い問題である。その議論を理解するために、まず評価方法の種類やその特性を知る必要があろう。

■学習上の留意点

本教材はあくまでも発達と学習に関わる問題を知る入門書に過ぎない。教育の現場では、より専門的かつ実践的な知識が求められることもある。本教材に掲載されている参考文献を足がかりにして自ら文献を探すということもしてほしい。

■参考文献

上記「学習上の留意点」の通り。

科目コード	科目名	単位数
0907	教育の社会学	2単位

教材コード 000421

教材名 『教育社会学 教師教育テキストシリーズ5』

著者名等 久富 善之・長谷川 裕 編

■教材の概要

本教材は、教育社会学の基本的な理論や概念、視点をコンパクトに伝える教科書であるが、同時に、各章は、現代の教育の特質や課題を、教育社会学の観点から分析・考察した論文集として読むことができるようになっている。

教材全体は難解なわけではないが、ところどころに難しい理論や概念が登場したり、込み入った論理展開の部分があったりする。だから、初学者が十分に理解するためには、線を引きながらの熟読や、くり返し読み返すことが必要である。

■学習計画のポイント

ページ 15 ～ 108

教育社会学はミクロな視点とマクロな視点とを併せ持った学問である。前半は、学校組織、カリキュラム、教師－生徒関係、教職、友人関係など、比較的ミクロな視点から考察をスタートする議論が並んでいる。それぞれの著者の議論や主張を理解したうえで、身近な教育の経験や情報と照らし合わせてみれば、本教材はかなり有用な視点を提供してくれるであろう。

ページ 109 ～ 195

後半は、教育から仕事への移行、子育ての変化、階級・階層と教育、国民国家と教育改革など、比較的マクロな視点からの論考が並んでいる。そうしたマクロな視点からの議論をきちんと理解していけば、目の前の物事を違った角度からながめることができる。興味や関心に従って、関連する文献を読んでいくと、もっと理解が深まるはずである。

■学習上の留意点

- ① 教材をよく読み、理解する。線を引きながら読み、くり返し読んでみる。
- ② 教材を、現代社会におけるさまざまなニュースや、身近な経験と照らし合わせながら読んでみる。
- ③ 重要なことは、暗記ではなく、「なるほど」といレベルで理解することである。
- ④ 教材を読みながら考えること、思いつくことがあれば、欄外に書き付けておいて、読み返すとき、自分なりの考えをみせてください。

■参考文献

教材の章末に掲げてある文献のほか、次のようなものを挙げておきたい。

※『リーディングス 日本の教育と社会』（全10巻）（日本図書センター）

『教育には何ができないか』 広田照幸著（春秋社）

『教育不信と教育依存の時代』 広田照幸著（紀伊国屋書店）

『日本を減らす教育論議』（講談社現代新書） 岡本薫著（講談社）

科目コード	科目名	単位数
0912	教育制度論	2単位

教材コード 000285

教材名 教育制度論

著者名等 北野 秋男・金 泰勲・谷本 宗生・矢治 夕起

■教材の概要

本書は3部構成となっている。第1部は「学校と社会の教育制度」であり、現在の公立・私立の学校制度の組織と運営、社会教育や生涯学習のあり方や基本問題が検討されている。第2部は「日本と諸外国の教育制度」であり、戦後における我が国の教育制度、教育行政制度のあり方、ならびにアメリカやアジアの教育制度の実情を紹介している。第3部は、「人権と教育制度」であり、在日外国人の教育の在り方、我が国の女子教育制度の問題、そして、フリー・スクールや情報公開制度の問題が論じられている。

■学習計画のポイント

本書の課題は、主として私たちを取り巻く身近な教育制度のあり方や問題点を具体的に探りながら、教育の在り方を根本的に再検討することである。今や日本の教育の在り方は、たんなる制度的な改革だけでなく、私たちが長い間、信じて疑うことの無かった教育の基本的な理念が問われているのである。特に、臨教審以降の我が国の制度改革の基本動向を理解しながら、教育のあるべき姿を考えてみたい。

■学習上の留意点

- ① 教育の問題を制度的な視点でみることと、可能であれば、教育法規も確認すること。
- ② 臨教審以降の我が国の教育制度改革の基本動向を理解すること。
- ③ 我が国の教育制度の発展を歴史的な視点から理解すると同時に、海外の教育制度と比較する国際的な視点からも理解すること。
- ④ 在日外国人、ジェンダー、情報公開制度などにおける人権と教育制度の視点を理解すること。

■参考文献

『教育小六法』（学陽書房）

科目コード	科目名	単位数
0926	教育の方法・技術論	2単位

教材コード 000341

教材名 教育の方法・技術論

著者名等 壽福 隆人

■教材の概要

この教材は現代教育の現状を考えるにあたって、その前提となる教育方法・教授論のあゆみについてまず整理している。さらに学習指導要領とカリキュラムについての基礎的概念を理解できるようにまとめている。これらをふまえて、後半では実際の授業づくりに必要な教育の技術をさまざまな角度から解説している。学習指導案を作成し、授業を行い、教育評価を行っていけるよう、教育実践を強く意識した構成となっている。

■学習計画のポイント

まず本教材の前半部分を熟読することが重要です。第1章から第3章で、教育方法学の歴史を追いながら、理論の発達過程と、カリキュラムの概念をしっかりとらえるよう務める必要がある。この中で、わが国に紹介された教育方法や教授論上の課題も見出すことができる。

後半の第4章からは前半で学んだ理論を実践に生かすという観点が求められる。したがって前半で学んだ理論を実践に生かすという観点が求められる。したがって前半で学んだ理論と後半で示されている実践技術とのかかわりを意識しながら学習することが重要である。

■学習上の留意点

本教材の記述をそのままレポートとして書き写すようなことがあってはならない。教育方法学の歴史的発展や現状の学校教育に見られる諸問題にも加味しながら、自分の言葉でまとめるよう努力することが求められる。

■参考文献

『中学校学習指導要領 解説 社会編（文部科学省）』（日本文教出版）

『高等学校学習指導要領 解説 公民編（文部科学省）』（実教出版）

科目コード	科目名	単位数
0931	国語科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000469

教材名 『新版 中学校・高等学校 国語科教育法』

著者名等 野地 潤家・湊 吉正 著

■教材の概要

本書は全十二章と教育実習に関する付章に加え、巻末の国語科関係法規資料とから構成されている。すなわち、第一章 新しい国語科教育、第二章 国語科教育の構造、第三章 国語科の指導課程、第四章 学習指導案の作成、第五章 ジャンル別教材研究と指導例（現代文）、第六章 同（古典）、第七章 言語教材研究と指導例（言語）、第八章 同（音声）、第九章 作文指導について、第十章 国語科における総合的な学習と指導例、第十一章 国語科指導の充実と活性化、第十二章 国語科教育の歴史、付章 教育実習の課題と留意点、付録 国語教育関係法規である。これらを①教育課程の意義、②その編成の方法について、③ジャンル別指導法、の三点に視点を捉えて読み解いて行く。そこから国語教育の基幹となる事柄を把握し、関連法規の求める時代や地域に根ざした国語教育像を追究して行くことである。

■学習計画のポイント

教育課程に占める国語科の位置づけについては、巻末の関連法規すなわち教育基本法、学校教育法、学習指導要領を念頭に置き、かつ照合しながら読み進めることが求められる。その編成については中学校、高等学校それぞれの特異性を考慮した配分に留意する必要がある。また、本書では指導法について多くの章を割いているが、これらをA話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むことの各項に類別して、それぞれの指導法をジャンル別に捉えることもできる。

■学習上の留意点

読解に当たっては、座右に用語解説書を備え、不明な用語は検索し、ノートに取りながら読み進めることである。また、付章は第四章の延長上に位置づけられる。ここから、多様なジャンルの指導法を策定する際に、具体的な学習指導案を作成しながら取り組む方法が考えられる。また、目次とは別に注意される用語や項目についての語彙索引を作成することをお勧めする。

■参考文献

『国語科重要用語 300 の基礎知識』大槻和夫編（明治図書）

『国語教育を学ぶ人のために』糸井通浩、植山俊宏編（世界思想社）

『高等学校新教育課程の授業と評価』田中孝一編（学事出版）

また、本書には8ページに亘って引用文献が明記されている。それら書目をリストアップして図書館などで当たることを心がけたい。

科目コード	科目名	単位数
0933	商業科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000470

教材名 『高等学校学習指導要領解説 商業編』

著者名等 文部科学省

■教材の概要

平成21年に改訂された高等学校学習指導要領は先行実施する一部を除き、平成25年度の入学生から学年進行により実施される。この学習指導要領の第3章第3節「商業」について、本教材は、その改善の趣旨並びに内容を解説したものである。

教材は改訂の趣旨、商業科の目標、商業科の科目編成、商業科の各科目（20科目の各科目の目標、内容とその取扱い）、教育課程の編成と指導計画の作成という構成になっている。

■学習計画のポイント

1. 総説の理解

- ① 学習指導要領の改訂の経緯や趣旨、要点などを簡潔にまとめ理解する。
- ② 商業の各科目相互の指導を通して商業科の目標の達成を目指していることなどを理解する。
- ③ 20科目の位置付けや各分野において育てる能力を理解する。

2. 商業科の各科目の目標及び内容とその取扱いの理解

商業の各分野に関する教育内容全般にわたっての基礎的な科目としての「ビジネス基礎」をはじめとして、総合的科目に属する3科目、マーケティング分野に属する3科目、ビジネス経済分野に属する3科目、会計分野に属する5科目、ビジネス情報分野に属する5科目の計20科目について、その目標、内容の構成及び取扱い、そしてその内容を十分に理解する。

3. 教育課程の編成と指導計画の作成の理解

- ① 教育課程を編成する上で十分な理解が必要となる教育課程編成の一般方針、各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等、各教科・科目等の授業時数等、教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項については、特に適正な理解を深めておくことが大切である。
- ② 指導計画の作成に当たっての配慮事項、各科目の指導に当たっての配慮事項、実験・実習の実施に当たっての配慮事項を理解する。

■学習上の留意点

各科目の指導法や教育課程の編成については、学習計画のポイントで示した事項を踏まえて考察し、実際の指導法や教育課程の編成例を自らが検討（作成）していただくことが大切である。この検討（各科目の指導法や教育課程の編成法）により、教師としての実践力が養われていく。その際、商業科教育法Ⅱの教材である『教職必修 最新商業科教育法 新訂版』の該当箇所なども参考にするとよい。

■参考文献

- 『高等学校学習指導要領』文部科学省（東山書房）
『最新商業科教育法』新訂版 日本商業教育学会（実教出版）
商業科目の教科書（ビジネス基礎、簿記、情報処理など）

科目コード	科 目 名	単位数
0937	教育相談	2単位
0947	教育カウンセリング論	2単位

※同一内容で科目名称が入学学年によって異なる科目（iii ページ参照）

教材コード 000218

教 材 名 教育相談／教育カウンセリング論

著 者 名 等 野々村 新・中村 淳子

■教材の概要

教材の内容は、大別すると、「カウンセリング」と「学校カウンセリング」に関する内容となっている。

「カウンセリング」では、その意義・目的、必要性、カウンセリングの種類およびその理論と方法、カウンセラーの資質（基本的態度とカウンセリング・マインド）について取り上げられ、「学校カウンセリング」においては、その意義・目的、必要性、その特質、教師カウンセラーの役割などが取り上げられている。

■学習計画のポイント

① 「カウンセリング」の領域に関して

カウンセリングがどのような必要性から生まれ、それは現在、人間に対して何を行うことを目的として実践されるのかについて十分に理解し、また、カウンセリングの効果を高めるためにカウンセラーにはどのような資質が求められるかについて、よく認識することが重要である。

② 「学校カウンセリング」の領域に関して

学校カウンセリング（教育相談）は、単に問題・悩みの解決のみを目的とするものではないこと、また、教師カウンセラーはどのような態度で生徒に接するべきであるか、についてよく理解する必要がある。

■学習上の留意点

特になし。

■参考文献

『入門進路指導・相談』 仙崎武著（福村出版）

『カウンセリング心理学（新版）』 渡辺三枝子著（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	単位数
0940	道徳教育の理論と方法	2単位
0941	道徳教育の研究	2単位

※同一内容で科目名称が入学学年によって異なる科目（iii ページ参照）

教材コード 000214

教 材 名 道徳教育の理論と方法／道徳教育の研究

著 者 名 等 小野 健知 編著

■教材の概要

自由競争の時代には、弱肉強食や優勝劣敗や適者生存の思想が是認されてきた。しかし、昨今は、私権は公共の福祉に従うとされ、21世紀の社会は、高齢化・情報化・国際化社会を意味する。高度の競争社会でありながら、福祉と協調が要請される。子供のときから「モノ」「カネ」「ヒト」と「関係」を考え、自立し、主体的に行動でき、責任のとれるような人間を作るにはどうしたらいいかを、師弟同行で考える。さらに「公」と「私」の問題と、「男女共同参画社会」を理解させたい。

■学習計画のポイント

ページ1～103

社会の変動と道徳教育との関連を、戦後10年きざみで実施された教育改革の中でとらえる。また、学校教育と道徳教育の目標を考察し、さらに道徳教育の全体計画や指導計画、指導案の作成を示す。

ページ105～206

主体性を確立するために、道徳の時間の指導方法を吟味し学校教育における他教科や特別活動とのかかわり、あるいは評価の仕方を検討する。また、明治維新以後の道徳教育の変遷および諸外国における道徳教育を比較検討する。

■学習上の留意点

- ① 現代の道徳教育の目標と問題点「道徳」の時間の内容項目を整理する。
- ② 道徳と他教科とのかかわりや明治以来の道徳教育の変遷をまとめる。

■参考文献

- 『小・中学校の学習指導要領（文部科学省）』
『小・中学校指導書・道徳編（文部科学省）』

科目コード	科目名	単位数
0942	特別活動の研究	2単位
0943	特別活動論	2単位

※同一内容で科目名称が入学学年によって異なる科目（iii ページ参照）

教材コード 000443

教材名 『最新 特別活動の研究』

著者名等 関川 悦雄

■教材の概要

本教材は、まず、今日学校の課外活動として行われている特別活動が教育課程の中でどのように位置づけられ、青年期の人間形成においていかなる意味をもつか、その特別活動が戦前どう取り扱われ、戦後いかなる過程を経て成立したか、について考察している。そして、現在の学校教育の中で展開されている特別活動がどのような目標をもっているか、個別の活動分野として、学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事がどのようなものかを叙述している。

■学習計画のポイント

ページ 7 ～ 74

教育課程とは何を意味し、その領域がどこまで広がるか、その領域の中に課外活動を含めるべきか。この観点から、戦前の課外活動が、戦後どうしてその為の時間をもち得たか、その活動の指針として学習指導要領をいかに準備したかを見よう。

ページ 75 ～ 157

現行の学習指導要領とは何か、その中で特別活動の目標はどう規定されているか。その活動分野として、学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれの目標・内容・内容の取扱いはどうなっているかを考えよう。

■学習上の留意点

- ① 課外活動の教育課程化の意味とその条件は何か。
- ② 自由研究の新設、特別教育活動への移行、特別活動の成立。
- ③ 2008 年改訂の中学校学習指導要領の改訂点と特別活動の目標、学級活動の目標と内容・その取扱い。
- ④ 中学校の生徒会活動・学校行事、高等学校のホームルーム活動の各目標と内容・その取扱い。

■参考文献

『中学校学習指導要領特別活動編』文部科学省（ぎょうせい）

『中学校教育課程講座特別活動』渡部邦雄編著（ぎょうせい）

『高等学校新学習指導要領の展開特別活動編』山口満編著（明治図書）

科目コード	科 目 名	単位数
0944	生徒指導・進路指導論	2単位

教材コード 000397

教 材 名 生徒指導・進路指導論

著 者 名 等 野々村 新

■教材の概要

本教材の第1～第6章において「生活指導」、第7～第13章のいて「進路指導」に関する領域が取り上げられている。

前者においては、学校における生徒指導の意義・目的・指導方法、および新しい特別支援教育法等が示されている。後者においては、学校進路指導の意義・目的、指導内容の6領域と指導方法、進路指導の現状と課題、および2004年に導入されたキャリア教育等について示されている。

■学習計画のポイント

中・高等学校の学習指導要領に「ガイダンスの機能の充実」が示されている。それをふまえて、生徒指導の改善・充実を図ることが要請されている。また、従来の「出口の指導」と呼ばれる進路指導から、「本来の」「教育としての進路指導」へ立ち戻ることが強く求められ、それを中核とするキャリア教育がスタートしている。

これらについて正しい認識を持つことが大切であるが、そのためには本教材を熟読することに加えて、巻末の資料や関係省庁・諸機関のホームページを参照するなどの努力が望まれる。

■学習上の留意点

生徒指導や進路指導・キャリア教育に関連する新しい施策が講じられ、また実践されているので、種々のメディアに注目する必要がある。

■参考文献

- ※『生徒指導・教育相談・進路相談』野々村新 他編著（田研出版）
- ※『最新 生活指導・進路指導論』吉田辰雄編集（図書文化社）

科目コード	科目名	単位数
0955	国語科教育法Ⅲ	2単位

教材コード 000445

教材名 『新たな時代を拓く 中学校高等学校国語科教育研究』

著者名等 全国大学国語教育学会編

■教材の概要

『国語科教育法Ⅰ』巻末の学習指導要領と、本書巻末にある10年を閲した後の指導要領との比較からも分かるように、新時代の国語教育は、コンピュータなどIT技術の汎用化から各種メディアのリテラシーが喫緊の課題となっている。それらは本書248頁以降に説かれているが、『Ⅰ』とも相俟って比較検討してみたい。また、新たに加わった項目として「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設されたことに着目したい。それらは古典（古文・漢文）教育に如実に反映される内容である。以下、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと等について中学校・高等学校における指導の実態を熟読し、併せてその方法論について考察を加えよう。

■学習計画のポイント

ページ49～215

本書の眼目とも言うべき「国語の力を育む学びづくりの方法と実際」について、中学校と高等学校のそれぞれの実施細目を読み取りたい。それらは国語の柱ともいうべき、A話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むことの指導に加え、D伝統的な言語文化と国語の特質に関する学習指導についても中学・高校の現場で求められている事柄である。具体的には中学における指導を基盤として更に高校段階で発展・深化すべき内容を捉え、比較・吟味することである。特にD項目に関して古典A・Bの解説は13頁に亘って古文、漢文、古典文法の指導法が詳述されている。以下、A項目に於ては三つの聞く力、対話の学習指導について、話し合いの内容では国語科と他教科との違いについても認識したい。Bに於ては文種と相互関係について捉え、表現技能と認識能力をふまえて創作のレベルにまで押し上げる。Cについては、国語力、読解力、言語力との関係から読むことを考え、小説の学習指導では視座転換の面、伏線の認知から読書指導計画にまで及ぶ。これらは中学校段階での確認事項であるが、それを基盤に138頁以降の高等学校に於ける指導内容と対置して深化の内容を捉えるべきである。特にディベートにKJ法を取り入れたことなど様々なアイディアを参考にしたい。詩歌の学習指導、評論文・論説文の指導法なども具体的な指導法が明示されている。これらの事柄を再読、三読して自家薬籠中のものとしたい。

ページ5～48・216～260

ここでは総則とも言うべき「国語を学ぶことの意義」に始まり、目標、デザインと進め、国語力の評価の問題、中等国語科教育の形成過程と今後の課題を捉える。はじめに生活に必要な2面4領域に亘る生活に必要な言語能力を確認し、コミュニケーションが人と人との関係性を抜きには考えられないことを把握したい。目標については技能・価値・情意のそれぞれと、指導事項の4分野に亘る細目について確認できる。デザインに於ては学習者の実態を把握した上での学習・年間計画の立案を読み取り、それをもとにした学習指導案の作成について考察し、教材研究・教材開発の段階へと進むことになる。後半には国語力の育ちの力をどのように評価するかにメスを入れ、内容と方法について考察する。それらは形成過程を眺めることで展望が拓けて来る事柄でもある。また、指導要領の変遷を見ることで今後の課題を考えることにも繋がる。そしてメディア・リテラシーに及ぶ内容は、生涯教育にも直結する事柄である。それら総則と、国語教育における今と未来という視点からこれら各章を読み取りたい。

■学習上の留意点

2011年から施行される新学習指導要領は、高等学校では2013年度第一学年から実施される。そこでは、ゆとりでも詰め込みでもなく、知識、道徳、体力のバランスとれた力である「生きる力」の育成が掲げられている。メディア・リテラシー学習の一方で、伝統的な言語文化と国語の特質に関する学習指導が求められるなど多岐に亘る内容がある。最新版の本教材から新時代の動向を探り、国語科の果たすべき役割を考察したい。

■参考文献

『国語学力論と実践の課題』全国大学国語教育学会編（明治図書）

『大村はま国語教室』大村はま著（筑摩書房）

『作文教育における創講指導の研究』大西道雄著（溪水社）

『日本語の文法』北原保雄著（中央公論社）

科目コード	科目名	単位数
0956	国語科教育法Ⅳ	2単位

教材コード 000446

教材名 『国語科の教材・授業開発論』

著者名等 町田 守弘

■教材の概要

Ⅲまでの内容から、本書では、更にイノベーション（戦略）を考察する。そこから新時代の国語教育に関する展望が拓けて来よう。いわゆる「国語嫌い」は、教師が教材を読んで分からせるという、トップダウン方式に問題がなかったか。これを可能な限り子供の側に立つ視点から、サブカルチャーに注目して新しい教材開発、授業開発を考えようとする。教師自らがアンテナを高く持し、「楽しく、力のつく」教材開発に取り組む姿勢が求められる。それら具体的な内容は、読む・書く・聞く・話すの各分野と、更に「見る」分野において多様な実践例が示されている。そこにあるコンセプトは生徒一人一人に対する配慮である。単なる知識の伝授でなしに、学習者主導の水平型へとパラダイム転換が求められている。著者自らの具体的事例から学び取る姿勢と、現代における国語教育の再検討が求められる。

■学習計画のポイント

ページ 8 ～ 119 ・ 258 ～ 281

筆者は、国語教育の戦略は常に更新されるという見地から、様々なイノベーションが可能であると説く。それには子供の文化に即したサブカルチャーに目を向ける必要がある。形骸化された学びのための学びから視点を変えて境界線上の教材に着目し、身近な場所にことばの学びを立ち上げる。古典の指導の場には源氏物語をアニメ化した作品、漢文では三国志のアニメなどに着目する。対話型発問、「見立て」の方法を用いた表現、また、話芸としての落語を音声言語活動として捉え、演劇にも着目するなど斬新な提言と実践例が取り上げられている。

ページ 122 ～ 255

Ⅲ章とⅣ章では、書くことと読むことの他に「見る」ことを取り上げる。携帯メールやホームページへの書き込み、ワードハンティングの活動、ワークシートを書く取り組み、更に絵の教材化からの作文へと展開する。また、パワーライティングの手法を取り入れた文書作成技術が語られ、交流作文の実際も報告される。読むことに於ては面白いこと、役に立つことに絞った選書が提言され、読書カードの実例が示される。また、従来、補助教材として用いられてきた、例えば軍記物語の甲冑を映像化して見せるものから、本教材として「見る」活動へ広げている。具体的には映画を教材化して、映像から言葉を引き出す言語化能力を育てる取り組みから、国語力の効果的養成法が生まれる。これらに通底する事柄は、多様な教材を開拓して魅力溢れる授業を構想することにある。様々な実践例から学ぶことは勿論、新時代に対応する魅力ある国語教室の実現を常に念頭に置くことが肝要である。

■学習上の留意点

いわゆる伝統的教材観を脱してサブカルチャーを取り込んだ新しい教材は、その検証が十分でないために、ともすれば安易に流れやすい側面を有する。「活動あって指導なし」という事態を避けるためにも更なる工夫と、積極的な授業公開による批判の場が求められる。一方、「定番教材」には長年月をかけた評価が定まっており、「教科書の名作」も存する。それら不易流行の真贋が問われている。以上の部分をしっかり読み取りたい。

■参考文献

- 『国語教科書の思想』石原千秋著（筑摩書房）
- 『サブカルチャー文学論』大塚英志著（朝日新聞社）
- 『声に出して読みたい日本語』斎藤孝著（草思社）
- 『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』鈴木みどり著（世界思想社）
- 『国語科教育の未来へ』浜本純逸著（溪水社）

科目コード	科目名	単位数
0957	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000221

教材名 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ

著者名等 山本 哲生

■教材の概要

社会科教育に焦点を当てた教材であり、地理歴史科教育にとって前提ともなり、基礎ともなる教材として位置づけたものである。内容は大別して社会科の性格（第一・二・三章）とその教育実践にかかわる知識と技能（第四章）及び社会科教師の資質（第五章）に分かれる。まず性格面では、戦後教育に登場した社会科の役割、50余年間の変遷、そして目標と内容（主として地理的、歴史的分野）について叙べた。次に教育実践面では、原理と技能に関することを叙べ、教師の資質では、肝要点を指摘し叙述した。

■学習計画のポイント

第一章については、社会科成立の経緯と役割（とくに第5節）について学習する。第二章については、とくに問題解決的学習期と系統的学習期の確立について把握する。第三章については、平成10年版「中学校学習指導要領」に表記された社会科の目標と地理的、歴史的分野の目標と内容の概要を把握する。第四章では、主として「学習指導」と「授業と教師」の内容を学習する。第五章では、社会科教師と今日の課題について要点把握をする。

■学習上の留意点

- ① 第一章では、前提として、日本国憲法の三原則、教育基本法理念、目的について明確に理解しておくこと。
- ② 第三章は、社会科の公民的分野、それに地理歴史科の目標・内容にかかわりがあるので、その面にも着眼しておくこと。
- ③ 第四章では、授業において「学習指導案」を作成することが大事なので、展開例の要領を把握しておくこと。
- ④ 第五章では、教師として現代社会の特質に敏感な認識をもち、問題点を把握しておくこと。

■参考文献

- 『中学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省）』（日本文教出版）
『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（文部科学省）』（実教出版）
『中学校社会科授業のり・デザイン』長谷川浩・工藤文三監修（東洋館出版社）

科目コード	科目名	単位数
0958	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000388

教材名 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ

著者名等 永野 征男・関 幸彦

■教材の概要

この教科書では前半が「地理」、後半に「歴史」分野がまとめられている。“はしがき”の部分に記されているように、一つの教科教育法の視点を分かりやすく概観した教材である。高校地歴科として、実際の授業で講述するときに注意すべき事象が中心となっている。高校教科書では、地理・日本史・世界史が含まれ、さらにそれぞれはA／Bに区分される。地理分野は、地域を捉える際の地理学的な考え方と見方に重点を置き、他の社会科系の科目との相違点（地理の特徴）を意識して書かれている。一方、歴史分野では、教科書を土台として、そこから発展的な学習が可能のように、日本史・世界史相互の接点を軸にまとめている。さらに、両者は互いに密接な関係を保ちつつ成り立っていることを、整理できるような配慮がとられている。

■学習計画のポイント

〈地理分野〉

世界やわが国に生起する地域現象を理解するとき、地理的な洞察力を身につけることの大切さを学ばせたい。そのためには、まず教師側がどの部分に焦点を合わせて、教案を作成すれば良いだろうか。事前学習における総論的な知識の吸収と、具体的な事象の選択の重要性を会得したい。

〈歴史分野〉

単に歴史的な事象を暗記するのではなく、歴史から読み取れるものを考えてほしい。つまり、知識から知恵への転換を目標に置きたい。それと同時に、昨今話題となっている学際的にさまざまな分野を総合する見方にも注目し、基礎的な知識を押さえつつ、新たな方向性も見出したい。

■学習上の留意点

まず、教科書に記載された内容の理解に努めること。その上で、関連する隣接分野をも含めた学習に進んで欲しい。

■参考文献

各章の終わりの部分に代表的な数冊が示してある。

科目コード	科目名	単位数
0959	社会科・公民科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000290

教材名 社会科・公民科教育法Ⅰ

著者名等 山本 哲生

■教材の概要

社会科教育を主たる対象にして述べたが、叙述意識には、取り上げた社会科の目標、内容、そして方法等は、枠組み、程度に、基礎と専門という差はあるものの、公民科教育との関連性が強く、両者には共有部分が多々あるとする認識に立って叙述した。そのような観点から、第1章では両者が究極の目標として共有する公民（的）資質に関して理解しておくべき事柄を取り上げた。第2章、第3章では、その資質の育成に係る社会科教育の歴史と現在の指標について述べ、高校公民科の目標も併記した。第4章は、教育実践に係る原理や技術を述べ、公民科の内容も含めた。第5章は、社会科教師の資質であり、それは公民科教師にもあてはまる。

■学習計画のポイント

- ① 第1章では、公民に関する歴史的概念（教育史上）と学習指導要領に見られる公民像や公民概念上のキー・ワードを押さえ、各自が公民的資質のイメージを造っておくこと。
- ② 第2章では、社会科発足以降50有余年、社会科の性格に関し歴史的变化を総括的に把握する、特に問題解決の学習、系統的学習、課題学習について理解する。
- ③ 第3章では、現行「中学校学習指導要領」に示されている社会科の目標、三分野の目標、（中でも特に公民的分野に重点をおく）を理解する。また、高校公民科の目標も知っておくこと。
- ④ 第4章では、1つは、社会科の三分野の内容について大項目、中項目を押さえること。そして特に公民的分野については概要を把握すること高校公民科・三科目の内容についても概略を知っておくこと。もう1つは、学習指導に関する必要事項と学習指導案について知っておくこと。
- ⑤ 第5章では、社会科教師の資質及び今日の課題とするところを押さえておく。同様なことは、公民科教師にとってもいえる。

■学習上の留意点

- ① 本テキストの巻末にある各章の学習ポイントに沿って学習することも、やり方の一つである。
- ② 本テキストは基本的に社会科に関する知識、原理について叙述したものである。理解をさらに補充する意味で、社会科の内容に関する事例研究や授業の実践報告等を発表した図書を見ることをすすめる。

■参考文献

『中学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省）』（日本文教出版）

『高等学校学習指導要領解説 公民編（文部科学省）』（実教出版）

その他、社会科に関する事例研究の図書は参考になる。書店で入手しやすい図書なら何でも可。

科目コード	科 目 名	単位数
0960	社会科・公民科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000278

教 材 名 社会科・公民科教育法Ⅱ

著 者 名 等 嘉吉 純夫・大塚 友美・武縄 卓雄・仲川 秀樹・松島 雪江

■教材の概要

新学習指導要領に基づき，高等学校学習指導要領解説（文部科学省）公民編を参照しながら，「現代社会」「倫理」「政治・経済」の各教科の教授法を提言した新しいテキスト。公民科各科目の共通の目標である「広い視野に立って，現代の社会について主体的に考察させ，理解を深めさせるとともに，人間としての在り方や生き方についての自覚を育て，民主的，平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」ために必要な心得を記した手引きの書。

■学習計画のポイント

学習者自身が公民科の教師として教壇に立った時を想定してテキストを読み進めること。その際，まずは文部科学省が期待している教育的効果をしっかり押さえることが肝要である。次には，本テキストの各執筆者が提言している諸々のアドバイスを自分自身の観点から吟味しつつ消化・吸収することが求められる。そして最後に，自分自身が理想とする授業を実現するためにはどうしたらいいのかを考え，それを「現代社会」「倫理」「政治・経済」の各教科毎にまとめる作業を行う。

■学習上の留意点

何よりも，自分が現場の教師になったつもりで，生徒を育てるにはどうすればいいかを常に念頭に置きながら考究することが大切である。

■参考文献

色々あり，あげると切りがないが，差しあたって，実際に使用されている各社教科書を手に入れ，目を通しておくこと（高等学校「現代社会」，「倫理」，「政治・経済」）。

科目コード	科目名	単位数
0961	英語科教育法Ⅲ	2単位

教材コード 000225

教材名 『英語科教育法セミナー』

(学習指導書別冊)

著者名等 浪田 克之助・熊取谷 哲夫

■教材の概要

この教科書は、まず外国語教育全体を構成する諸要素を単離し、とりわけ重要な学習者の心理的要因を分析し、学習される言語知識の中核である文法の教授法を考え、この受動的知識を能動的知識に転換するための訓練法を論じ、学習目標に対して学習結果が占める座標と今後の方位の測定の方法について考え、最後に以上の総合としての教授法を論じるという章分けをその構造としている。その主旨に沿い各部を統合して、自らの有機的体系構築の資とされんことを望む。

■学習計画のポイント

ページ7～57

外国語教育担当者の常にチェックすべき事項の確認、学習心理の分析、言語運用の背後にある言語知識の教育の方法について。

ページ58～100

受動的言語知識を言語使用の場で能動的に運用できる知識に転じるための訓練の技術、知識の授受および訓練の成果を確認し、以後の方向模索のための学習者の知識・能力の測定法、外国語教育に関わる諸要素の選択結果を総合しての方法論。

■学習上の留意点

英語教育を論じるための technical term, 英語教育の理論と方法。

■参考文献

H. H. Stern, Fundamental Concepts of Language Teaching, O. U. P.

科目コード	科 目 名	単位数
0962	英語科教育法Ⅳ	2単位

教材コード 000227

教 材 名 『Second Language Acquisition』 (学習指導書別冊)

著 者 名 等 Rod Ellis

■教材の概要

教室における英語教育は様々の視点から見ることができる。例えば、これを規定する法的な枠組みとか、教授者の視点とか、教授者から半ば独立して教授者を補助する ALT とか CALL (Computer Assisted Language Learning) などの視点、あるいは学習あるいは学習者からの視点などである。本書は、最後に記した視点から、第2言語(英語)学習に関する過去の研究結果を要約したものである。取り上げられている問題は、第2言語学習と第1言語の知識・能力との関連、学習者の学習の動機あるいは方略、教育が学習に果たす役割、学習の進行過程、などである。

■学習計画のポイント

英語教育の方法を考えることは、自らの英語学習の方法を考えることと、ある程度までは表裏一体であるところがある。自らの体験を振り返りながら、あるいは今後の自らの方向付けをしながら、自らの問題として、本書に要約されている研究成果を批判的に検討することが、自らに益するだけでなく、教室において能力を発揮する源となるものと思われる。

■学習上の留意点

本書は、英語学習について、英語学習を論じるための英語で書かれている。本書が、上記のような英語学習の理論を瞥見するためばかりでなく、今後英語教育においてますます大きな役割を果たすことになると思われる ALT との打ち合わせなどに際して、十分な意志疎通を図るための言語を習得するために利用されることが望ましい。

■参考文献

本書は、概していえば、浩瀚な下記の書の要約である。不足するところがあると感じたときには、下記の書から十分な説明を得ることできよう。『The Study of Second Language Acquisition.』Rod Ellis. (Oxford University Press.)

科目コード	科目名	単位数
0964	地理学概論	4 単位

※この科目は文理学部哲学専攻・史学専攻のみ配当です。

教材コード 000471

教材名 『地理学概論』

著者名等 上野 和彦・椿 真智子・中村 康子 編著

■教材の概要

地理学の目的は、場所・空間・環境・地域をより深く理解することによって、人類がより平和な暮らしを営むための知識と方法を提示することにある。本書は、こうした根本的な問題意識にしたがって、地理学を15の項目で解説している。地理学の歩み、地理学からみる世界、生産の地理、流通・交通の地理、生活行動の地理、都市の地理、村落の地理、社会・福祉の地理、知覚の地理、生活文化・民族の地理、不平等の地理、民族・移民の地理、環境の地理、まちづくりの地理、地理学の資料と表現方法の各項目である。

■学習計画のポイント

本書の内容は、大きく4つに分けることができる。学習の際には、これらの点に注意しポイントを押さえることが求められる。「地理学の歩み」「地理学からみる世界」では、地理学の基本的な見方を理解し、その考え方を習得する。これを踏まえた上で、「生産の地理」「流通・交通の地理」「生活行動の地理」「都市の地理」「村落の地理」「社会・福祉の地理」では、各種産業や都市・村落の立地などの理論的側面とその実態について学ぶ。「知覚の地理」「生活文化・民族の地理」「不平等の地理」は、人間の生活や行動の社会的側面に着目するものである。「民族・移民の地理」「環境の地理」「まちづくりの地理」「地理学の資料と表現方法」では、現実の地球的・地域的課題を取り上げ、地理学の方法論も学ぶことになる。なお、コラムに掲載されている内容も地理学によって諸事象を捉える一助になる。

■学習上の留意点

地理学が対象とする事象は、自然的側面と人文的側面があるが、本書はとくに後者に重点を置いている。地理学の見方と考え方をより深く理解し活用していくために、本書巻末と下記の文献などを参照して、各項目ごとに認識を深めながら、項目相互の関係性にも留意することが肝要である。

■参考文献

『人文地理学—その主題と課題—』杉浦章介・松原彰子・武山政直・高木勇夫（慶應義塾大学出版会）

『地図読解入門』籠瀬良明著・水嶋一雄編（古今書院）

『Geography: A Very Short Introduction』Matthews, J. A. and Herbert, D. T. (Oxford University Press.)

科目コード	科目名	単位数
0967	地誌学	4単位
0968	地誌学概論	4単位
0969	地理学概論（地誌を含む）	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000232

教材名 地誌学／地誌学概論／地理学概論（地誌を含む）

著者名等 永野 征男

■教材の概要

広い意味の地理学であって、地誌学は総合的な地域研究を主眼とする。現在、世界を国家単位で解説することは、必ずしもその国の理解に通じない。国境を越えた広い領域で各地を捉え、その視点も自然・人文といった従前の思考から脱して、民族・宗教・文化的な面から学ぶように変りつつある。この教材も各国に生起するテーマを取り上げているが、各自がさらに背景などに関して勉強し、最新データにもとづく知識をもつことが大切である。

■学習計画のポイント

ページ 1～77

1～41 ページ

アジア大陸におけるインド・中国・旧ソ連を中心に、その民族の捉え方を呈示している。さらに各国と日本との関係を付記してある。第2章のタイトル「文化の中間地帯」としての各地の実状をみるのが大切。

43～77 ページ

オーストラリア・アフリカ両大陸における民族と産業との関係に絞って記載されている。各国の鉱産資源の特色に注目し、次に先進諸国との貿易面に関して学ぶことが重要である。

ページ 79～167

79～134 ページ

先進国の代表ともいえるEC諸国とアメリカ合衆国が中心である。変動激しいEC内において、ここでは特異な民族問題だけを述べている。合衆国ではこの国特有な社会構造の把握を目的として具体的に示した。

135～167 ページ

多民族国家アメリカに関して、エスニシティ的な観点からまとめている。先住アメリカ人としてのインディアン、移民の中から日系人、あるいは反文明を掲げるアーミッシュなどを素材として、より多くの民族の学習をする必要がある。

■学習上の留意点

- ① 自然環境と文化形成の関係について。
- ② 資源（農業・鉱業）と開発に関して。
- ③ 各民族間における社会構造の差異について。
- ④ 多民族国家の特性と問題点について。

■参考文献

※『世界地誌ゼミナール』（大明堂）

※『週刊朝日百科 世界の地理 全12巻』（朝日新聞社）

科目コード	科目名	単位数
0973	経済地理	4単位
0974	経済地理学	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000233

教材名 経済地理／経済地理学

著者名等 佐藤 俊雄

■教材の概要

経済地理学は、生活者、消費者、流通業者、および生産者らが時代や社会の変化のなかで、いかに地域的・空間的に行動し、またこうした変化に対応しているか、さらに、かれらがこうした変化に対して、どのように相互に作用し、適応し、また、計画的に、創造的に行動し、活動しているかを、経済活動および経済空間を通じて分析し、評価し、体系化することである。

本教材は、このことを、生活空間、流通空間、生産企業空間、および地域・空間構造の分野に分けて論説している。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 160

まず、経済地理学の主要な対象である経済活動とこれが展開される経済空間を把握し、経済空間の普遍性と固有性の存在を認識する。

つぎに、成熟社会における生活者の生活行動および生活空間の多様性、とくに前者の生活行動には、主として五つの行動パターンがあることを理解する。

さらに、サービス化・情報化社会における小売企業および卸売企業の活動範囲としての流通空間を捉え、その空間的变化を経営組織、経営技術、および経営地域環境の側面から捉え、そこに普遍性と固有性のあることを認識する。

ページ 161 ～ 292

まず、ソフト化・ハイテク化社会における生産企業の経済活動を展開する範囲としての生産企業空間を把握するために、とくにハイテク企業の立地、立地適応、および立地戦略を学習する。

つぎに、もう一つの生産空間である農林生産空間が地方の時代、地域の時代、およびグローバルの時代において、こうした時代に適応するために固有化し、あるいは普遍化していることを認識する。

最後に、生活空間、流通空間、および生産企業空間が情報ネットワーク化され、経済的空間構造が究極的には多極連結情報ネットワーク型になることを理解する。

■学習上の留意点

- ① 「経済空間の普遍性と固有性」の存在をつねに念頭において、理論的把握から実践的把握へ、全体把握から部分把握へと学習を進めるとよい。
- ② 教材はできるだけ第1章からじっくり読みはじめ、読み返しながらか前進するとよい。
- ③ キーワードに注目し、教材末尾の索引を利用して、その意味をしっかりと理解し、類義語と混同しないこと。
- ④ 文中の引用文献や各章末尾の参考文献について、できるだけ原典にあたり併読するとよい。

■参考文献

※『ショッピング・センター』J. A. ドーソン著 佐藤俊雄訳（白桃書房）

※『マーケティング地理学』佐藤俊雄著（同文館出版）

『マネジメント—基本と原則—【エッセンシャル版】』P.F. ドラッカー著 上田惇生編訳（ダイヤモンド社）

※『地方からの変革』平松守彦著（角川書店）

科目コード	科 目 名	単位数
0975	人文地理学概論	4 単位

※この科目は法学部・文理学部史学専攻・経済学部のみ配当です。

教材コード 000422

教 材 名 人文地理学概論

(学習指導書別冊)

著 者 名 等 永野 征男

■教材の概要

人文地理学の研究対象地域の中から都市地域を取り上げて、多くの学問領域が研究している都市社会を、地理学的な視点で分析している。したがって、各地域に生起する様々な人文現象を、地理的な手法を用いて分析調査する意義と特徴を学んで欲しい。

とくに本書の最大の特徴は、日常の都市生活の中で、市民として関わる多くの法的規制を、都市の急速な変容と併せて解説している点にある。つまり、都市社会の変容過程には多くの法律がこれまでも関与してきた。それらの内容の理解としては、具体的な多くの地域調査例をもつ地理学が、もっとも有効であると考えるところから出発している。

■学習計画のポイント

ページ 1～66

都市社会を地理的な視点から分析する概要が述べられている。とくに本文中にも記されているように、わが国の都市の最大の特徴はその歴史性にある。学術的な歴史的要素の理解の上に立って、いま伝統的な都市が置かれている状況を、保存・保全という立場から説明している点に特色がある。

ページ 67～150

都市化現象の地理的な分野からの分析に中心がある。なかでも、科学的にこの世界的な現象を調査した結果から、都市間の比較と特徴的な事象の解説に新記述がある。さらに、日本国内で問題となる地域開発の法理論的な解説が、具体的な事例とともに理解できるように構成されている。

■学習上の留意点

本書に付帯する「学習指導書」がすべてである。その内容を本文と併せて理解することが重要である。

■参考文献

各章の末尾に、単行本を中心として多くの学術論文を掲げてある。その部分を参考として欲しい。

科目コード	科目名	単位数
0977	自然地理学概論	4 単位

※この科目は法学部・文理学部史学専攻・経済学部のみ配当です。

教材コード 000236

教材名 自然地理学概論

著者名等 小元 久仁夫・前島 郁雄・松井 健・立石 友男

■教材の概要

自然地理学において、もっとも基本的な要素である地形・気候・土壌・植生について学ぶ。自然環境は人類の生活や生産の舞台である。したがって世界各地の自然環境の構成要素や、その特徴について学ぶことはきわめて意義のあることであり、重要である。本書は自然環境の構成要素である地形・気候・土壌・植生についてグローバルな視点からとらえるとともに、地域的な観点からも理解を深めるような内容となっている。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 164

1 ～ 81 ページ

地球内部から働く営力により形成される火山地形および変動地形と、地表に直接働きかける営力により形成される風化と流水による地形・海岸地形・氷河および氷床により形成される地形について、その特徴を学ぶ。

83 ～ 164 ページ

はじめに気候学の歴史と分野を学ぶ。次いで大気中のエネルギーと気候との関係を学習する。気候要素の中で重要な気温・風・降水について、分布の特徴や原因と、人間との関わり合いと気候区分について学ぶ。

ページ 165 ～ 349

165 ～ 260 ページ

土壌地理学の発達史と方法論（野外調査法を含む）について学び、次いで土壌の生成や分類方法を学ぶ。そして世界各国に分布する各種の特徴や気候および植生との関係を学習する。

261 ～ 349 ページ

植生のさまざまな区分法について学び、日本や世界の植生分布について学習する。また日本と世界の森林帯の特徴と人間の関わり合いについて学ぶ。

■学習上の留意点

- ① 地形形成営力と世界各地でみられる地形の特色。
- ② 気候要素と気候因子。世界の気候帯の分布と特色。
- ③ 世界の土壌の特徴。土壌の成因・区分・分布。
- ④ 植物帯の特徴・区分・分布。気候や土壌との関係。

■参考文献

- 『発達史地形学』貝塚爽平他著（東京大学出版会）
『一般気象学（第2版）』小倉義光著（東京大学出版会）
※『大学テキスト土壌地理学』浅海重夫著（古今書院）
※『景観の分析と保護のための地生態学入門』横山秀司編（古今書院）

科目コード	科目名	単位数
0980	漢字書法	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（国文学）のみ配当です。

教材コード 000237／000238

教材名 漢字書法手本／漢字書法教本（学習指導書） ※2冊組み

著者名等 津金 孝邦

■教材の概要

中国書道史における主たる作品、主たる作家について、本書においては大方大切と思われるものについて触れた。時代時代により次々と書はその姿態を変え、優れた人物により異色なる作品が生み出されて、書の歴史は形成された。書の変遷の軌跡にふれ、書の歴史を俯瞰することができるようにしたいと考えた。なおまた、それぞれの時代の背景や、個々の作品の特性や詳細にわたっては、更に参考文献も豊かであるので、十分に補ってほしいと思う。

■学習計画のポイント

ページ1～27

太古時代は文字の発生。三代は甲骨文字に始まり、石鼓文に終わる。秦時代は季斯の活躍が特筆される。漢時代は隸書、木簡、竹簡が代表する。隸書も初期が情趣豊かなものから整正へと向い、やがて筆法を失っていく過程がみられる。

魏呉蜀の三国時代は楷書の萌芽、そして鐘、（テキストの鐘は鍾に訂正）の書美に注目したい。六朝時代は南北に分れて書の二大潮流の時代。一方は龍門に代表され、また一方は羲之、献之による多彩なる典型美完成を特徴とする。

ページ29～59

唐は初唐の三大家に続き、顔真卿、懷素、孫過庭という巨匠の時代。古典期黄金の時代と言うべき。宋の蘇東坡は詩文に優れ、黄庭堅・米は異能の士であった。明朝後期を飾る一連の書家の作品は近年一段と名を高からしめている。

阮元による「南北書派論」等による書論の動きと金石学の勃興により、碑版法帖の比較研究等による個性的な書風の確立をみる。各人がそれぞれの書境を開示した。篆隸の復興は、石如を始めとし、趙之謙・吳昌碩等を輩出した。

■学習上の留意点

- ① 甲骨文、金文、隸書を調べる。
- ② 龍門造像、王羲之一族の書を調べる。
- ③ 唐代の書の変遷を知る。宋元明の書人の流れを調べる。
- ④ 清代書家の種々相を調べ、鑑賞する。

■参考文献

『和漢書道史（新版）』藤原鶴来著（二玄社）

※『書道全集』巻1, 2（平凡社）

※『書道全集』巻3, 4, 5, 6（平凡社）

※『書道全集』巻10, 15, 16, 17（平凡社）

※『書道全集』巻21, 24（平凡社）

科目コード	科目名	単位数
0981	かな書法	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（国文学）のみ配当です。

教材コード 000239／000240

教材名 かな書法手本／かな書法教本（学習指導書） ※2冊組み

著者名等 藤木 正次

■教材の概要

テキストは「かな書法」の基礎を手本と学習指導書の2冊によって学べるようにできている。この2冊をペアで使用することによって、部分的な実技学習でも、全体像の中で学習意義を理解できるように配慮されている。つまり学習指導書の内容を手本によって確認しながら、手本の技法を身につけることで、知識と実技が同時に修得できる仕組みになっている。詳しくは、テキストの「手本の学び方」および「まえがき」に記してあるので、参照の上学習効果を高めてほしい。

■学習計画のポイント

ページ2～5

学習指導書の姿勢・執筆法・腕法・運筆と用筆・かなの線・形などをよく読んで、「いろは」単体を丁寧にゆっくりした筆運びで練習することである。線の太い細いや線の向きなどにも注意して、特に回転線の動きに気をつけること。

ページ6～11

草がなはよく練習して覚える。次に二字の連綿である。上の文字と下の文字の終筆と起筆の形によって分類してあるので、その関係をよく理解した上で、実習してほしい。学習指導書の61ページの連綿についてよく読んで参考にする。

ページ12～13

二字以上の多字連綿を連綿をしている状態から例示してある。学習指導書の64～65ページと比較しながら、特色を理解した上で実習してほしい。手本17ページ以後の古筆からいろいろな連綿の箇所を探してみるのもよい。

ページ14～16

高野切を中心とする11世紀中頃のかなと針切など11世紀後半から12世紀にかけてのかなは、いろいろな点で相違が見られる。これを字座のゆれや行の息づきという点で確かめる。さらにかな特有の散らし書きについて学習する。

■学習上の留意点

- ① 学習指導書の『かな書法教本』1をよく読んで覚えること。
- ② 学習指導書の『かな書法教本』2を手本と比較しながら内容を確認し、覚えること。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0983	法学通論	4単位
0984	法律学概論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000241

教材名 『現代法学入門（第4版）』

（学習指導書別冊）

著者名等 伊藤 正己・加藤 一郎 編

■教材の概要（学習指導書から抜粋）

① 本書は、6人によって分担執筆されています（執筆者と分担については、冒頭ii頁の「執筆者・執筆分担」の表を参照）。そして、“執筆者の個性的な考え方を、ある程度まで表に出して、読者の考える材料を提供するという心がけ”のもとに執筆・編集されたものです（冒頭iii頁の「初版はしがき」）。

したがって、履修するには、各章や節（§）毎に、それぞれがその分担執筆者の講義（授業）なのだというのを自覚しながら、読み進む－理解することが肝要です。

② 本書は、今日の日本の法ないし法学についての概説書です。類書は、「入門」ではなくて「通論」・「通説」・「概論」・「概説」とするものや、“現代法学”ではなくて“法律学”・“法学”とするものがあり、または単に『法学』というだけの書名のものもあります。

そして、類書には、本書の2倍程度の字数をもつものが多いのです。つまり、本書は、極めて要約・圧縮されています。しかも、その記述（講義内容）は、一般学生にとっても理解しやすいものであり、決して難解ではありません。この故に、本書は、職業をもつ通信教育部の学生にとって、類書中で最適の教科書であると言えます。

しかし、極めて要約・圧縮されているものですから、よく“読みこなす”ことが必要です。およそ、しっかりと3回読みかえせば、4回目は頁を繰るだけでその頁に書かれていることを理解し得るはずです。また、読む回数を重ねる毎に、理解の深度が増すこともあります。つまり、読回を重ねるにつれて、書かれていることの新たな意味内容を理解（発見）し得ることもあります。新発見への関心を高めて、読回を重ねて下さい。

③ 各章ないし節（§）末に「参考文献」が紹介されています。著者と書名だけは一読しておきましょう。時間があれば、図書館や書店などで手にとって一覧ないし熟読するとよいでしょう。

④ コモン・センスをもった教養人になろう

本書は、法学の教養をはぐくむのに好適なテキストです。そして、本書を法学のテキストとして学ぶことによって、必然的にコモン・センス（commonsense）が培養され得ると期待されます。学習する皆さんが、法学についても教養を具備した、コモン・センスあふれる良識人になっていただくことを祈念してやみません。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 93, 205 ～ 229

第1章（1～32ページ）・第2章（33～81ページ）と第3章中の§1（83～93ページ）および第4章（205～229ページ）は、いわば法学通論の講義（法学一般に関する講義）である。履修の手引を参考にし履修されたい。全体として、重点的に要約されているため、講義内容はすべて重要である。

ページ 94 ～ 204

主として、第3章§2（94～110ページ）は憲法、§3（111～127ページ）は刑法、§4（128～140ページ）は家族法－民法第4編親族法と第5編相続法－、§5（141～156ページ）は財産法－民法第1編総則・第2編物権法・第3編債権法－、§6（157～179ページ）は労働法、§7（180～204ページ）は国際法の講義である。それぞれ、極めて重点的に要約されているから、条文が示されている場合には必ず「六法」を開いてその条文をしっかりと読みながら、すべてについて十分に理解されたい。

■学習上の留意点

- ① 講義内容のすべてが重要であるから、すべてについて充分理解することが必要。
- ② 示されている条文は、必ず「六法」を開いてその条文を確実に読んだうえで本書を読み進むことが肝要。

■参考文献

本書の各章や節（§）の末尾に紹介されている。しかし、それらをすべて読むのは至極大変なことであるから、履修上ではそれらの書名や著者名を一読しておくだけでよいでしょう。そして、時間的余裕がある時に読めばよい。

科目コード	科 目 名	単位数
0985	政治学概論	4 単位

※この科目は文理学部哲学専攻・史学専攻のみ配当です。

教材コード 000243

教 材 名 政治学概論

著 者 名 等 杉本 稔・山田 光矢

■教材の概要

本教科書は5章から構成されているが、第1, 2章は政治現象とはいかなる現象なのか、またその政治現象を研究する政治学とはいかなる学問なのか、という問題を検討する。そして第3章は、その政治現象から展開される場としての政治社会を歴史的に考察している。第4章は政治現象が展開される制度的枠組みを理論と現実の両面から解説し、最後に第5章は政治現象が展開されるプロセスを採りあげている。これら各章相互の連関性を念頭におきつつ、学んでほしい。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 148

1 ～ 67 ページ

何故に「科学的」政治学という言葉が使われねばならないかを考えること。また政治現象の中核にあるとされている権力を、関係概念を中心として十分に理解すること。これと関連して支配・操作・リーダーシップの相違を明確にすること。

69 ～ 148 ページ

市民社会が形成される過程を市民革命との関連で理解すること。さらに市民社会の限界性を踏まえて、市民社会が大衆社会に移行する必然性を考え、大衆社会の病理的側面を整理しておく必要がある。

ページ 149 ～ 289

149 ～ 227 ページ

ロックとモンテスキューの権利分立論の異同を十分に整理した後、議院内閣制と大統領制を具体的に検討すること。政治社会において議会の果たす役割を考察し、議会政治と民主主義の関係を把握すれば、選挙の意義も理解されるだろう。

229 ～ 289 ページ

政治システム論と関連づけて政治過程の全体像を把握することが肝要であり、これができれば選挙・政党・圧力団体等の問題も理解できよう。またこれらは、各国の具体的事例に即して検討した方が、理解が深まるであろう。

■学習上の留意点

- ① 教科書の熟読。
- ② 「学習の要点」を読み、ノートを取りつつ教科書を再読。
- ③ 教科書・ノートを参照して「研究課題」に解答。
- ④ 自己の弱点を確認し、教科書・参考文献で補強。

■参考文献

各章末にある簡単な解説を付した文献一覧を参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
0986	経済学概論	4 単位

教材コード 000244

教材名 経済学概論

著者名等 水村 光一

■教材の概要

経済学をはじめて学ぶものを想定して全体を大きく三つの部分に分けてできるだけわかりやすく記述してある。

第1章から第5章までは、経済学がどういう学問かがわかるように、その誕生から始めて経済体制や経済循環、経済学の歴史などについて説明した。次に第6章から第9章までは、ミクロ経済学について需給の基礎理論を中心に、続いて第10章から第13章まではマクロ経済学について、均衡国民所得水準の決定を中心に解説してある。最後に第14章で市場の失敗を説明した。

■学習計画のポイント

ページ 3 ～ 157

第1章（経済学と経済生活）から第9章（市場と価格）までが前半となるが、それはさらに第1章から第5章（経済学の歴史）までと第6章（需要と供給の基礎理論）から第9章までの二つに分けられる。

まず第1章から第5章は、経済学を学ぶものにとって最も基本となる事項、例えば経済学がはじめてアダム・スミスによって学問として確立されたときが英国の産業革命の初期で、このことがその経済学の性格に大きな影響を与えていることを知ると自然と経済学に興味をもてるはずである。また、第6章から第9章のミクロ経済学も日常の経済行動との関連を考えると興味がわくはずである。

ページ 161 ～ 273

第14章（市場の失敗）を除いて、第10章（経済活動水準の測定）から第13章（IS-LM曲線分析と経済政策）まですべてマクロ経済分析に関するものである。

その中でも特に全体としての経済活動水準がなぜある水準に決まるのか、つまり均衡国民所得水準の決定についてのケインズ理論に基づく解説は、はじめて経済学を学ぶものにとって、簡単な代数を用いることもあって難しいかもしれないが、その理論がはじめて発表されてから60年以上経過するのに今なお新鮮で驚きである。その喜びを知るためには、根気強く学習を続け理解する努力をしなければならない。

■学習上の留意点

経済学は専門用語が多く、その内容を正確に理解せねばならないことを、学習を始めるとすぐ気付くはずである。そこで教材ではできるだけ小見出しを多くしてあるので有効に役立ててほしい。また、教材はただ読むだけでなく自分の文章で読んだ内容を要約する習慣をつけてほしい。

■参考文献

- 『ミクロ経済分析』中山靖夫著（八千代出版）
- 『マクロ経済分析』中山靖夫著（八千代出版）
- 『経済学入門（新版）』千種義人著（同文館）
- ※『経済原論』熊谷尚夫著（岩波書店）

科目コード	科 目 名	単位数
0988	職業指導	4 単位

※この科目は経済学部・商学部のみ配当です。

教材コード 000455

教 材 名 職業指導

著 者 名 等 野々村 新

■教材の概要

本教材では、主として高等学校における本来の進路指導の意義・目的とそれを達成するために行われる指導の領域、指導方法、指導体制および進路指導の基礎理論等について概観している。また、平成16年度に導入されたキャリア教育の意義、目的、理念、それと進路指導との関係についても解説している。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 141

まず、学校における“出口指導”ではない“本来の進路指導”とはどのような意義・目的を持つ教育活動であるか、それは学校教育で何故必要であるかについて説明されているので、この点に関する明確な認識を持つことが肝要である。

さらに、その意義・目的を達成するために行われる指導の6領域（第4章～第9章）のそれぞれについて正しく理解する必要がある。

ページ 143 ～ 271

まず、学校において本来の進路指導が適正に実践されるためにはどのような指導体制と指導計画が必要であり、そこで各教師がどのような役割を遂行すべきであるかを理解する必要がある。また、平成25年度から実施される高等学校の新しい学習指導要領において進路指導の在り方にどのような変化が生じるのか、についても明確に認識すべきである。

さらに、教育の新しい理念と方向性を示すキャリア教育に関して、それは何をめざすのか、それは今後どのような方向へ向かおうとしているのか、について正しい理解を行うことが大切である。

■学習上の留意点

中央教育審議会答申、教育基本法と学校教育法の改正、および学習指導要領の改訂等に留意する必要がある。

■参考文献

『改訂 生徒指導・教育相談・進路指導』野々村新ほか（編著）（田研出版）

『最新 生徒指導・進路指導論』吉田辰雄（編著）（図書文化社）

科目コード	科目名	単位数
0989	心理学概論	4単位

※この科目は商学部のみ配当です。

教材コード 000247

教材名 心理学概論

著者名等 大村 政男

■教材の概要

この概論の最も大きな特徴は口語体の文章で書かれているということです。「である体」の文章だとどうしても難解になりがちです。「です・ます体」であるため内容はぐっとやさしくなっています。もう一つの大きな特徴は、やたらに学界の新しい知識を追わないで、基礎的で、しかも重要なものを講義するようにしたことです。大学の講義は難解であればあるほど魅力がある—といった時代は過去のものです。この本によって「心理学」に対する親密感を培ってください。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 136

1 ～ 66 ページ

発達・認知・学習・知能がここに入ります。発達・知能より認知・学習のほうが難しいと思います。人間はいかにして外界を認知し、その情報をどのように理解して利用に適応していくかを、自分の経験を通して考えることが大切です。

67 ～ 136 ページ

性格とその診断法がここに入ります。心理学の中で人びとの興味が集中するところです。心理学の研究対象は人間です。科学的なセンスで人間を見ていくことは大切なことですが、それだけですべてが解決しないことも知るべきです。

ページ 137 ～ 322

137 ～ 234 ページ

ここでは臨床心理学に関する問題を扱います。自分の動機づけられた行動を内観したり、自分の欲求不満や葛藤を分析することが大切です。「自分の」というところが大切なのです。そうすれば知識は自然に「自分のもの」になっていくでしょう。

235 ～ 322 ページ

この本では、犯罪心理学の中に知覚関係の知識を入れて理解しやすくしています。社会心理学の学習のためには日常マスキの動きに注意することが大切です。心理学史では心に関する研究の大きな流れをつかむこと、統計法では自分で問題を作って計算してみることに。

■学習上の留意点

- ① 発達の法則・情報処理・学習理論・知能の構造など。
- ② 内的実在論・状況理論・類型論・特性論・性格の把握など。
- ③ カウンセリング・精神分析・来談者中心療法・臨床心理学ブームについてどう考えるか。
- ④ ゲシュタルトの法則・図と地・少年犯罪・群衆の心理・流行など。

■参考文献

- ※『ベーシック心理学』 巖島・羽生共編（啓明出版）
 ※『ヒルガードの心理学』 アトキンソン他著 内田一成監訳（ブレーン出版）
 ※『「こころ」の出家—中高年の心の危機に—』（ちくま新書）立元幸治著（筑摩書房）

科目コード	科 目 名	単位数
0992	国語科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000444

教 材 名 『新訂 国語科教育学の基礎』

著 者 名 等 森田 信義・山元 隆春・山元 悦子・千々岩 弘一

■教材の概要

本教材の七章の構成は、第一章の国語科教育の意義・目標について、戦後の学習指導要領の変遷をもとに概観する。それら目標とする事柄が国語科における読む・書く・聞く・話すの4項目でどのように実践されるかを見るものである。第二章では「書く」ことの表現指導を明治期に遡って平成期までをたどる。第三章と第四章は「読む」ことの内容で、文学教材と論理的性格の文章とに分けられ、これらの基本となる書物について、第五章に読書教育が置かれている。第六章は話すことと聞くことの実践である。第七章は視点を変えて伝統的な言語文化と国語の特質に関して述べられる。これら各章の内容は、常に巻末にある最新の学習指導要領と照応しながら、学習指導における実践内容として捉えることが求められる。

■学習計画のポイント

ページ 74 ～ 277

三つの章を割いていることから分かるように「読む」教育の基本をしっかりと読み取りたい。三読法による基本的スタンスから、文学的文章の読解と論理的性格の文章の差異を捉えよう。文学的文章からは宮沢賢治『やまなし』に見られる擬声語・擬態語の事柄、新美南吉『ごんぎつね』からは、一文ごとの記述内容の余白にある動きに目を向けさせるなど具体的事柄が検証される。説明的文章では評価読みと確認読みの内容を把握したい。また、ブックトークの取り組みからは「話す・聞く」分野にもまたがる。発表を「聞く」ことに於ても受容的・創造的・批判的と、異なる角度からのアプローチがあることなど確認したい。

ページ 1 ～ 73・278 ～ 323

表現（書くこと）教育の研究は、指導要録の変遷が端的にたどれる分野で、改訂の度に重点項目とされる分野でもある。生活綴り方から始まる「すなおに書く・ありのままに書く」内容が、「自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力」と、より深化した形で提示され、それらは「伝え合う力を高める」態度の養成とも重なっている。これら「書く」ことについては、第七章「書写指導」の実際とも併せて捉えることができる。新時代に対応したリテラシーとも重ね合わせ、漢字使用の変化に関する現代の環境についても考えてみたい。

■学習上の留意点

指導要録の変遷をたどる中から、改訂の基本方針にみられる改善の具体的事項を当てはめてみたい。そこから各項目に求められる、新時代に対応した国語教育の指針が見えて来る筈である。その視点から国語科が求められている内容を考えてみよう。

■参考文献

- 『文章心理学』波多野完治著（三省堂）
- 『国語教育と現代児童文学の間』宮川健郎著（日本書籍）
- 『読書生活指導の実際』大村はま著（共文社）
- 『話しことばの科学』斎藤美津子著（サイマル出版）

科目コード	科目名	単位数
0994	商業科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000472

教材名 『教職必修 最新商業科教育法 新訂版』

著者名等 日本商業教育学会 著

■教材の概要

商業教育の必要性や意義の理解の上に、わが国の商業教育の歩みや高等学校学習指導要領に基づく教科「商業」についての広範囲な知識などを学び、これらを基に指導計画の作成や授業展開についての知識・技術に関する学習へと、その学びが進められるように項目の配列がなされている。そして、その後、現在の学校運営上欠かすことのできない項目についての学習を深め、商業教育における課題と展望について考察するという内容などで構成されている。

■学習計画のポイント

ページ7～147

高等学校学習指導要領に基づく教科「商業」についての広範囲な知識を習得する。

- ① 商業教育の必要性と意義及び高等学校学習指導要領の教科「商業」の変遷についての理解を深める。
- ② 平成21年改訂の高等学校学習指導要領の教科「商業」について、必要な内容の理解を深める。
- ③ 指導計画と授業展開に関する知識や技術の理解を深める。

ページ148～204

現在の学校運営上に欠かすことのできない項目についての理解を深める。

- ① 商業教育を通じて育成したい生徒像、商業教育と特別活動・生徒指導・進路指導・キャリア教育などについての理解を深める。
- ② 商業科教師への期待、商業教育の課題と展望について考察する。

なお、ページ182～204までは資料集であり、学習の進度に応じ参考にすること。

■学習上の留意点

- ① 商業教育の必要性や意義を理解した上で学習を進める。
- ② 高等学校学習指導要領の教科「商業」についての変遷を理解する。特に、各改訂の背景を踏まえて各時代の学習指導要領の特徴の他、教材に記されている項目ごとの内容の理解を深める。
- ③ 学習計画ポイントを踏まえて、具体的な教科の指導法について十分に検討することが大切である。特に、学習指導案の作成や実際授業を行う上での知識や技術について、十分理解を深めておくことが重要である。
- ④ 学習計画のポイントの③などを踏まえて、教育課程の意義や編成などについても十分に理解を深めておくことが大切である。その際、商業科教育法Ⅰの教材である『高等学校学習指導要領解説 商業編』の該当箇所などを参考にするとよい。

■参考文献

『高等学校学習指導要領』文部科学省（東山書房）
『高等学校学習指導要領解説・商業編』文部科学省（実教出版）
商業科目の教科書（ビジネス基礎、簿記、情報処理など）

科目コード	科目名	単位数
0996	英語科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000257

教材名 英語科教育法Ⅰ

著者名等 田室 邦彦

■教材の概要

主として中等教育における、英語教育に関わる法的な枠組みを紹介し、その意味を検討している。ここで法的枠組みとしているのは、学校教育法、学校教育法施行規則、教育職員免許法、教育職員免許法施行規則、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、小学校学習指導要領、大学設置基準、中央教育審議会答申、教育課程審議会答申、教育職員養成審議会答申、などである。

■学習計画のポイント

特になし。

■学習上の留意点

「教材の概要」で言及した法的な枠組みの意味は、どのような部分に焦点を当てたか、そこで問題としている部分そのもの、それを含む文脈、その背後にある法的な枠組みや答申などをどう読むかによって、それぞれ異なるべきものである。本書の意味づけは、あくまで一つの意味づけに過ぎない。本書が教科書であるとするなら、それは読む方々が自分の意見を形成するためのたたき台としてである。本書の解釈は devil's advocate の言説として読んでいただいて結構である。もちろんここでの devil's advocate の意味は、ある英和辞書に記されている「故意に反対の立場をとる人、つむじ曲がり、あまのじゃく；悪口屋」という訳語から受け取られかねない、好んで異を立てる人の意味ではない。devil's advocate n. 1 a person who argues against a proposition, to test it or provoke discussion. [COD] の意味である。もちろん、そうはいつでも著者の意味づけの態度は、devil's advocate の英語の意味より訳語の意味に近いじゃないか、とするのも一つの見解である。いずれにしても、それを利して、自分の意見を形成していただくことを重要な点と考えている。

■参考文献

法的な枠組みに関わる資料として上に記したものは、いずれもインターネット上で入手できる。最大の入手先は文部科学省のサイト (<http://www.mext.go.jp/>) である。

科目コード	科 目 名	単位数
0997	英語科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000387

教 材 名 『新英語科教育の基礎と実践』

著 者 名 等 JACET 教育問題研究 編

■教材の概要

本書は、第1部理論編と第2部実践編から成る。第1部では、日本の英語教育の歴史、学習指導要領の変遷、教授法の分類、第2言語習得理論などが扱われている。

第2部では、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングなどの指導の方法が扱われている。さらに、中学校、高等学校や、「総合的な学習の時間」の中の小学校での英語学習も考察されている。

本書は、広範囲の内容を扱っているため、よく纏められている反面、議論に深まりがないことは否めない。そのため、扱われている内容の意義を十分に理解するには、他の箇所と比較検討することが不可欠である。また、本書を見取り図として、他の文献から得た知識を統合するよう試みることを強く望む。

■学習計画のポイント

最初に全体を通読した上で、「文法・訳読法」、「ダイレクト・メソッド」、「オーラル・アプローチ」、さらに、第2言語習得理論を比較検討すること。また、それぞれの理論が、実際の指導とどのように関連しているかに注意して実践編を学習すること。

■学習上の留意点

英語教育法と第2言語習得研究の理解。実際の教授法の理解。専門用語の理解。

■参考文献

本書中に参考図書が挙げられているので、適宜参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
1001	学校経営と学校図書館	2単位

教材コード 000299

教材名 『学校経営と学校図書館』

(学習指導書別冊)

著者名等 古賀 節子 編著

■教材の概要

まず、学校図書館というものがいかなるものであるか、そしてどのように生まれ、今日に至っているかを明らかにする。

そこで、学校図書館が学校教育において欠くことのできないサービス機関であることを理解し、学校図書館メディア、施設、設備の全体を把握し、それらの維持・管理のしくみを検証する。そのあと、全体的な学校図書館経営、学校図書館活動、そして、学校図書館の評価と改善を取り上げ、課題と展望で終わる。

■学習計画のポイント

学校図書館の機能や役割は、学校で行なわれる教育活動のすべてに関わるものである。言いかえると、学校経営全般に関わることである。まずこのことを理解して、学校教育全体に目を向け、今日の問題も含めて、学校を全面的にとらえられるようにする。

学校図書館の経営は、内容豊かである。業務も多様である。全体からすると、学校図書館の部分はサブシステムとなるものである。部分をしっかりとらえ、全体を機能させることができるよう、学習を組み立ててほしい。

■学習上の留意点

学習の部分をしっかりとらえ、全体である学校図書館が生きて働くよう部分をつなげる。学習領域は広い。時間かけて理解を深めることが肝要。

■参考文献

※『学校図書館を創る』山本みゆき著（長崎出島文庫）

※『子どもが生きる学校図書館』熱海則夫・長倉美恵子編著（ぎょうせい）

科目コード	科目名	単位数
1002	学校図書館メディアの構成	2単位

教材コード 000389

教材名 『分類・目録法入門(新改訂第5版)―メディアの構成―』(学習指導書別冊)

著者名等 志保田 務・井上 祐子・向畑 久仁・中村 静子

■教材の概要

本書は学校図書館における資料の選択・収集，蔵書構成，資料組織法（分類・件名・目録）について解説している。学校図書館において資料を選択・収集する上での諸問題，教育方針と学習方法に即した蔵書コレクションの形成，主題による組織化として分類・件名，書誌による組織化として目録について解説している。

■学習計画のポイント

主に図書資料を中心に選択・収集，蔵書構成における問題を把握して，主題を分析して記号化する分類作業と，書誌情報を作成する目録作業について重点的に理解を図りたい。

■学習上の留意点

- ① 資料の選択・収集について。
- ② 蔵書構成について。
- ③ 分類・件名について。
- ④ 目録について。

■参考文献

- 『資料組織演習（新訂版）』吉田憲一・野口恒雄著（日本図書館協会）
『日本十進分類法（新訂9版）』（日本図書館協会）
※『日本目録規則 1987年版（改訂3版）』（日本図書館協会）
『基本件名標目表』（日本図書館協会）
※『中学・高校件名標目表（第3版）』（全国学校図書館協議会）
※『小学校件名標目表（第2版）』（全国学校図書館協議会）

科目コード	科目名	単位数
1003	学習指導と学校図書館	2単位

教材コード 000448

教材名 『学習指導と学校図書館 学校図書館実践テキストシリーズ4』

著者名等 朝比奈 大作 編著

■教材の概要

全体は3章から成っており、第1章が総論、第2・3章は各論に相当する。第1章では、今なぜ「学習情報センター」としての学校図書館が必要とされているのか、という理念的、思想史的な解説がされており、次代を担う子どもたちを教育するにはどのようなメディア環境が求められるかという問題提起を行っている。2・3章ではそれぞれ「メディア活用能力の育成」「学校図書館における情報サービス」という見地から、「調べ学習」ないしは「情報検索」の具体的な方法とその指導のあり方について解説している。特に「教師を支援する」という学校図書館の機能についても留意しておきたい。

■学習計画のポイント

ページ9～64

上記のようにこの部分は全体の「総論」にあたる。なぜ学校には「学校図書館がなければならない」とされているのか、そしてなぜ学校図書館には資格を持った専門家としての「司書教諭を置かなければならない」と定められているのか、司書教諭の仕事のうち「資格の無い者には任せられない」仕事とはどのようなものなのか、しっかり考えてほしい。特に情報化社会と言われる現代において、子どもたちに何を教えていくべきなのか、という「見識」を持つよう努力していくべきである。

ページ65～170

前半（1章）の総論と後半（2・3章）の各論は何回か往復しながら学習を進めるべきである。後半部分は正に司書教諭として「実行」しなければならない具体的な仕事の内容である。1つ1つの具体的な解説について、「今の自分に実行できるだろうか」と問いかけながら読み進めてほしい。そして「今の自分には実行できそうもない」と思えたならば、「それではこのことを実行できるようになるためには、どんな学習・努力が必要だろうか」と考えてほしい。いわゆる「調べ学習」の指導者となることを目指しているのだから、自ら「調べ学習の達人」にならなければいけないはずだ。テキストに「書いてあること」を理解し、暗記するばかりでなく、常にその内容を「実行する」「指導する」ことを念頭に置いて学習を進めること。

■学習上の留意点

- ① 上記の繰り返しになるが、自らが「調べ学習・情報検索の達人」になるよう、「実際に調べてみる」ことを前提に学習を進めること。
- ② メディアの状況（特にインターネット関連）は変化が激しい。テキストに書かれていない「最新の情報」についても学習するよう心がけること。

■参考文献

- 『学習指導と学校図書館』堀川照代ほか（日本放送出版協会）（放送大学教材）
- 『インターネット時代の学校図書館—司書・司書教諭のための「情報」入門』根本彰監修（東京電機大学出版局）
- その他、テキストに掲載されている参考文献も活用されたい。

科目コード	科目名	単位数
1004	読書と豊かな人間性	2単位

教材コード 000302

教材名 『心の扉をひらく本との出会い 子どもの豊かな読書環境をめざして』（学習指導書別冊）

著者名等 笹倉 剛

■教材の概要

まず、「感動は心の扉をひらく」という信念に立って、子どもにとっての読書の意義を考察する。

その上で、感動する本との出会いの豊富な事例に即して、現代の子どもが置かれている状況の中での子どもの発達と読書の問題を論ずる。そして、子どもと質の高い本を結ぶ大人の役割と、その方法について述べる。

■学習計画のポイント

- ① 子どもにとって読書は何を意味するのか。すぐれた本との出会いは子どもに何をもたらし、子どもの読書離れは何をもたらすのかを、しっかり考える。
- ② すぐれた本のもつ力、豊かな人間性を育む本について考察する。
- ③ 映像文化、電子的ネットワークという時代状況の中で、子どもの発達と映像文化や読書はどう関わってくるのかを考察する。
- ④ 子どもが、よい本と出会い、読書を楽しむ習慣を身につけるための具体的な方策を考える。

■学習上の留意点

紙幅の限られた教科書の中では、十分に記されていないことを補うため、また自らの読書に対する考え方を確立するためにも、巻末に掲載されている参考文献にはなるべく多く目を通すこと。そして教科書で取り上げている子どもの本や、すぐれた子どもの本を紹介した本を参考に、何冊かの子どもの本を読んでみる。

■参考文献

※『橋をかける 子供時代の読書の思い出』（すえもりブックス）

『本が死ぬところ暴力が生まれる』バリー・サンダース著、松本卓訳（新曜社）

※『読書の発達心理学』秋田喜代美著（国土社）

科目コード	科目名	単位数
1005	情報メディアの活用	2単位

教材コード 000473

教材名 『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学 5巻）』

著者名等 全国学校図書館協議会

■教材の概要

本書は学校教育と学校図書館における情報メディアの活用について解説している。情報とメディアの語源と定義、情報メディアの種類と特性、オンライン系の情報源としてのインターネットの活用、ディスク系の情報源としてのCD（CD-ROM, CD-R, CD-RW など）、DVD-ROMなどの原理と活用、著作権をめぐる今日的な課題、情報社会の光と影として、学校教育で情報メディアを活用する上での諸問題を論じている。

■学習計画のポイント

- ① 情報とメディアの定義について、教科書・教材・参考図書を参照して、熟考する。
- ② インターネットの活用について（サーチエンジンを使ったWebpageの検索）、実際に試みる。
- ③ CD, DVD, ブルーレイディスク（CD-ROM, DVD-ROMも含む）の活用についても、実際に試みる。
- ④ 著作権について、事例を参照して、問題点を考える。
- ⑤ 情報社会におけるモラルについて、新聞や雑誌を活用して、最近の事例から問題点を考える。

■学習上の留意点

現在、学校図書館では紙に印刷された資料（印刷メディア）以外の情報メディアが急激に導入されている。学校図書館におけるオンライン系・ディスク系の情報源の特性を理解して、情報メディアに関する視点を持ち、児童生徒が学習の場で活用できる方法を考察することが目的である。著作権、情報モラルなどの今日的な問題についても考察したい。

■参考文献

- 『情報メディアの意義と活用』大串夏身編（樹村房）
『学校図書館と著作権 Q & A（第3版）』森田盛行著（全国学校図書館協議会）
※『現代社会と著作権』斎藤博他著（放送大学教育振興会）

科目コード	科 目 名	単位数
2001	生涯学習論	2単位

教材コード 000436

教 材 名 『生涯学習概論』

著 者 名 等 佐藤 晴雄

■教材の概要

生涯学習および社会教育に関する基礎基本をまとめた入門書であり、大学で生涯学習論を学ぶ各位を対象としたテキストである。

■学習計画のポイント

- ① 学習プログラムとは何かを整理し、学習プログラムのタイプ、学習プログラムの編成の視点、を本書から学習してゆく。実際に行われている学習プログラムを、博物館などを例に挙げて理解を深める（111～121ページ）。
- ② 社会教育施設について学習を行う。公民館、図書館、博物館、その他社会教育施設についての理解を深める（169～185ページ）。

■学習上の留意点

予習を必ず行ってくる。特に、博物館で行われている学習プログラムについて、リサーチを行うこと。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
2008	民俗学	4単位

教材コード 000311

教材名 『民俗学がわかる事典』

(学習指導書別冊)

著者名等 新谷 尚紀編 (田中藤司共同執筆)

■教材の概要

私たちの身近な問いに答える形で、民俗学の成果を165項目に分けてまとめている。62人の執筆者が、各自の得意分野を最新の議論を踏まえて平易に解説した。今日の民俗学の水準をホットに伝える。

■学習計画のポイント

ページ 16～85, 166～241, 346～372

1～2章・12章

民俗学の方法と学説を学ぶ。庶民社会の生活文化史の諸相をとらえようとする民俗学の研究対象の拡がりを実例で知り、「ハレとケ」・まれびと・境界などの分析のための道具（分析概念）とアプローチ方法（資料操作法）を理解する。

6～8章

社会生活の研究について学ぶ。村と家を舞台に、農業・漁業などの生業（生産活動）と食生活・住居など消費生活とが、不可分に結びついて展開してきた庶民史を知る。戦後日本人の生活変化の根本にある社会構造の変化を理解する。

ページ 88～163, 244～343

3～5章

儀礼と民間信仰について学ぶ。庶民の生活文化が表出された年中行事と人生儀礼の諸問題を知る。儀礼・民間信仰と社会生活との関連に注意する。

9～11章

口頭伝承と芸能など、民俗学をさらに豊かなものにする研究分野を知る。沖縄文化を研究する意義を考える。

■学習上の留意点

民俗学とは何かを理解するより、むしろ民俗学によって何が見えてくるかを各自が具体例に基づいて身につけたい。履修者は興味をひかれる項目から教科書を読みすすめ、自分が追究したいテーマを発見し、そこにアプローチするためのガイドとして教科書を活用いただきたい。とくに興味を持った項目に掲載された参考文献を読破して理解を深めよう。

地元図書館の郷土史コーナーで自治体誌（〇〇町史や民俗調査報告書など）を参照したり、郷土資料館・博物館で知見を広めることが望ましい。自分の経験の中で疑問を育て、研究テーマ＝問いをたてることが重要である。身近な高齢者に往時の生活についてインタビュー（フィールド・ワーク）を試みるような積極性を期待している。

■参考文献

個別テーマの研究論文については教科書を、総論・講座本や辞典類については『学習指導書』を参照いただきたい。ここには担当者の論文を収録したものを挙げる。図書館で確認されたい。

『暮らしの中の民俗学1・2・3』波平恵美子他編（吉川弘文館）

※『生・老・死 日本人の人生観』国立歴史民俗博物館研究報告91集

※『民俗の記述』柳田国男研究会編（岩田書院）

科目コード	科目名	単位数
2009	文化人類学	4 単位

教材コード 000424

教材名 『文化人類学のレッスン[増補版]』

(学習指導書別冊)

著者名等 奥野 克巳・花淵 馨也 共編

■教材の概要

文化人類学は複雑化する現代社会において異文化および自文化を理解するための重要なカギとなる学問である。本書はこのような文化人類学を初めて学ぶ人のための教材である。内容は、はじめにフィールドワークの手法による方法論とこの文化人類学の形成について論述している。そして文化人類学が注目する民族や国家、家族や親族、ジェンダーなど、人間社会の各諸相や経済活動について考察する章が続く。後半では儀礼や宗教及び文化やアイデンティティのあり方や現代的問題であるグローバル化についても言及し、文化人類学が取り組んできた人間社会への多角的な分析とさまざまな問題へアプローチの方法について考えていくことができる。本書を教材として、文化人類学が捉えようとしている事象とその方法の一端を学んで欲しい。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 130

まずは文化人類学の研究を振り返り、その成立の状況から、この学問がいかなる方法によって研究されて来たか考え、その重要なポイントであるフィールドワークの重要性を把握する。研究の対照となる人間を分類する概念である国家や民族について考察する。また、人間の基本的な社会構造としての家族や親族の様相についても考察し、社会的動物としての人間の「性」についても改めて考えていきたい。また、人間がおこなう経済活動に関しても、文化人類学的な視点で捉え直していきたい。

ページ 131 ～ 280

人間が行ってきた儀礼について考察し、その行為や目的などについて分析していく。儀礼とかかわりが深い宗教と呪術に関してもその諸相と意味するところを考えていく。人間社会において直面する「死」は宗教が必ず関わってくる、この「死」の文化についても考察を進めていく。また、現在の視点として、「文化」そのものの意味と、文化と深く関わるアイデンティティに関して考察し、グローバル化が進む現代世界での文化人類学が目指す方向やこの学問が問い続ける意味について考えていく。

■学習上の留意点

文化人類学がいかなる学問であるか、その輪郭を感じ取ってもらいたい。文化人類学はフィールドワークが唯一の研究手法であり、このフィールドワークによる文化人類学者の異文化経験を追体験しながら学習するように努めてほしい。また、この文化人類学が対象とする領域は文化のすべての面に及ぶので、それぞれの事項について整理しながら学習すること。不明な用語については教材巻末に索引があるのでそれを利用すること。

■参考文献

- 『文化人類学 15 の理論』（中公新書）綾部恒雄編（中央公論新社）
- 『文化人類学を学ぶ』（有斐閣選書）蒲生正男他編（有斐閣）
- 『文化人類学入門（増補改訂版）』（中公新書）祖父江孝男著（中央公論新社）
- 『フィールドワーク（増訂版）』佐藤郁哉著（新曜社）
- ※『文化人類学の名著 50』綾部恒雄編（平凡社）
- ※『文化人類学と人間』綾部恒雄他著（三五館）
- 『文化人類学 20 の理論』綾部恒雄編（弘文堂）
- ※『人類学的思考の歴史』竹沢尚一郎著（世界思想社）

科目コード	科目名	単位数
2010	博物館概論	2単位

教材コード 000474

教材名 『新しい博物館学』

著者名等 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

■教材の概要

本書は、今日の博物館が生涯学習社会における社会教育機関として社会的関心と期待の高まりの中で、学芸員としての博物館に関する基本的知識を習得する。さらに、博物館の現状を知り、博物館・博物館学とは何か、博物館と利用者サービスとの連携活動について理解を深めることを目的としている。

■学習計画のポイント

ここでは、博物館の現代的課題を交え、博物館の基礎的知識の習得を図ることを目的としている。博物館とは何か。博物館法と関連法規に示された法令に基づき博物館の歴史を知るとともに、21世紀の博物館像についても考える。多様な現代社会の中で博物館が学校教育、地域社会、さらには生涯学習への要請に対するあり方を学ぶ。そして、変化する社会環境の中で、博物館の現状を知るとともに課題について考える（12～74ページ）。

■学習上の留意点

本書にたよることなく、参考文献も参照して勉強すること。

■参考文献

- 『博物館学講座 第1巻 新版 博物館概論』加藤有次編（雄山閣出版）
- 『新編 博物館学』倉田公裕・矢島國雄著（東京堂出版）
- 『博物館の理念と運営 利用者主体の博物館学』布谷和夫著（雄山閣出版）

科目コード	科 目 名	単位数
2011	博物館経営論	2単位

教材コード 000475

教 材 名 『新博物館学—これからの博物館経営』

著 者 名 等 小林 克

■教材の概要

博物館を運営していくためには、形態面と活動面における適切な管理・運営が求められる。その上で、ミュージアム・マネジメントという概念の理解と実践内容が問われている。それらを学びあわせて、博物館との連携についても理解を深める。

■学習計画のポイント

博物館を運営していくためには、博物館資料とともに施設・設備、職員は不可欠である。今日、重要視されているミュージアム・マネジメント、ミュージアム・マーケティングという概念の理解と実践について学ぶ。博物館の自主的経営をはかるには、安定的な財源の確保、魅力ある展示をはじめとする来館者のニーズに促す事業展開などが求められている。また、博物館の連携も重要である。博物館を支える組織づくり、研究機関、地域社会など、博物館経営とはいかなるものか。実例をみながら課題を考える。

■学習上の留意点

本書のみにたよることなく、参考文献も参照して勉強すること。

■参考文献

『博物館経営論』大堀哲編（樹林房）

科目コード	科 目 名	単位数
2 0 1 2	博物館資料論	2 単位

教材コード 000476

教 材 名 『博物館学教程』

著 者 名 等 大堀 哲

■教材の概要

本書は、博物館資料の概念を明確にし、その上で博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法を学ぶ。また、博物館における調査研究活動の意義と内容を理解し、成果の還元について知る。博物館資料の公開についても学ぶ。

■学習計画のポイント

博物館資料とは何か、まずはその概念を理解する。その上で、博物館資料について、“その種類”さらには資料の収集方法、受入れから登録までの整理、活用を学ぶ。また、博物館の調査研究活動の意義、目的、対象と方法、成果の還元等々の理解を深める。

■学習上の留意点

本書のみにたよることなく、参考文献も参照して勉強すること。

■参考文献

『博物館ハンドブック』加藤有次・椎名仙卓編（雄山閣出版）

『博物館学講座 第5巻 新版 博物館資料論』加藤有次他編（雄山閣出版）

科目コード	科 目 名	単位数
2013	博物館資料保存論	2単位

教材コード 000477

教 材 名 『文化財保存環境学』

著 者 名 等 三浦 定俊・佐野 千絵・木川 りか

■教材の概要

文化財を保存するための環境について、温度や湿度、光、空気汚染、振動・衝撃、火災・地震などの劣化要因を挙げ、劣化要因が起こす被害の大きさと事象発生確率から危険度を評価し、優先順位をつけて対策をたてる方法を解説。

■学習計画のポイント

- ① 博物館の資料が化学的、物理的、生物学的に劣化する要因のあげ、そのメカニズムと保存対策について学習できる。
- ② 自然災害や、火災などの人災、略奪や戦争などによる博物館資料の被害と応急的な対策について学習できる。

■学習上の留意点

博物館資料は、実物資料であり、展覧会などで活用すればするほど消耗していく、資料保存論を学ぶことによって博物館資料の消耗を防止する事が可能になるので、後世に資料を伝えていく責任がある学芸員を目指す人達は、その知識を博物館活動に即して学んでほしい。

■参考文献

『文化財虫害事典』東京文化財研究所編（クバプロ書籍）

科目コード	科目名	単位数
2014	博物館展示論	2単位

教材コード 000478

教材名 『学芸員の仕事』

著者名等 神奈川県博物館協会編

■教材の概要

本書は、博物館の常設展や特別展をはじめ、博物館のさまざまな課題や問題について理解することを目的としている。博物館資料の効果的な活かし方のうち、最もその意図が伝わる手段が「展示」である。「展示」とは何か、どのような視点に立つべきか、など、学芸員の経験から学習する。本書は、博物館業務全般にわたる内容となっているが、「博物館展示論」では、主に下記計画にもとづき、学習していく。

■学習計画のポイント

「博物館展示論」は新たに設置された科目であり、展示の歴史や、メディア、展示を通じた教育、展示形態の種類などの方法論・理論を学んでいく。本書では、単なる理論だけではなく、学芸員の実態を通して方法論を学ぶように設定されている。また、人文系のみならず自然系博物館施設の事例も多いので、それぞれの特色を活かした資料の取り扱い方、調査実態、展示設計、行程、パネル作成、巡回展示、さらに展示広報のあり方などを丁寧に読み取り、理解してもらいたい。

■学習上の留意点

博物館における展示は、博物館の経営理念や収集資料の特性に応じて検討することが必要である。よって、展示論は、経営論・資料論・教育論をはじめとした各論との密接な関連によって成立する。本科目の学習においては、本書だけに頼らず、コース必修科目で指定されている教材や、教材で提示されている参考文献を使い、さらには博物館を実際に見学して展示方法を学ぶことで、理論・方法論を実感することができる。積極的にさまざまな博物館施設に足を運んで貰いたい。

■参考文献

特になし。

科目コード	科 目 名	単位数
2015	博物館教育論	2単位

教材コード 000479

教 材 名 『博物館展示・教育論』

著 者 名 等 小原 巖・守井 典子・酒井 一光・塚原 正彦・降旗 千賀子・大堀 哲・佐々木 亨・廣瀬 隆人

■教材の概要

本書は、博物館における「教育」の意義を学び、その上で理論・実践に関わる知識や技術の理解・習得を目的としている。内容は、展示論・教育論の両部門を包含しているが、「博物館教育論」では、主に下記計画にもとづき、第5～7章ならびに特論を対象とする。

■学習計画のポイント

「博物館教育論」は新たに設置された科目であり、博物館がもつ、資料収集、整理・保管、調査・研究、教育活動のなかで、特に「教育活動」に重点を置く。博物館における「教育」とは何か、その意味・意義を丁寧に読み取って貰いたい。また、生涯学習、地域学習、専門教育としての人材養成など、教育の場としての博物館のあり方を考え、利用者と博物館との関係もあわせて学習したい。さらには、教育普及活動の実態などについてもその理解を深めてもらいたい。

■学習上の留意点

博物館教育は、収集資料の特性、展示情報、展示方法、博物館経営など、さまざまな部門との関連で成り立っている。よって、本科目の学習は本書だけに頼らず、コース必修科目で指定されている教材や、教材で提示されている参考文献を使ったり、さらには複数の博物館を実際に見学したり、博物館主催のイベントなどに参加することで、一層の理解の深化が期待できる。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
2016	博物館情報・メディア論	2単位

教材コード 000480

教材名 『博物館経営・情報論』

著者名等 佐々木 亨・亀井 修・竹内 有理

■教材の概要

本書は、「博物館情報・メディア論」において、博物館における「情報」の意義・活用、ならびに「メディア」を通じた情報発信の課題などを理解することを目的とする。さらに、情報提供と活用に関する基礎的能力の学習・修得をめざしていく。

■学習計画のポイント

全編にわたり、経営・展示・教育・情報と多岐にわたる内容となっている。そのなかから、資料の情報化について、博物館が持つさまざまな機能のなかで、博物館としての情報の意味、情報化、展示と情報との関係性、さらに情報の管理と教育普及を重点的に学習する。博物館で扱う情報は、近年の ICT (Information and Communication Technology) 化の進展との関係性も深くなっており、博物館のなかでシステム化される情報の意味、などについての理解を深めてもらいたい。また、経営との関わりのなかで考えるべき、経営戦略のための情報、メディアとしての博物館のあり方などを学ことで、近年の博物館のあり方とは何かを考えて貰いたい。

■学習上の留意点

情報では「博物館資料論」、情報発信は「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館教育論」と関連性が高い。そのような点をかんがみ、本書での学習のみに頼らず、学芸員としての資質を養うためにも、その他のコース必修科目教材とあわせながら学習することで、一層の理解の深化が期待できるだろう。また、実際にどのような発信をしているのかは、実際に博物館を見学してみるとよい。

■参考文献

『博物館情報論（新版・博物館学講座）』加藤有次他編（雄山閣出版）

